

## 第58回中国四国地区大学図書館協議会総会

日 時 平成22年4月15日(木) 13:30~17:00  
当番館 徳島大学附属図書館  
会 場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

### 協 議 題

#### 全体会議

- 1) 平成21年度 決算報告 (幹事館 広島大学)
- 2) 平成21年度 監査報告 (監査館 県立広島大学)
- 3) 平成22年度 予算案 (幹事館 広島大学)
- 4) 中国四国地区大学図書館協議会ホームページ開設に伴う会則等の改正について (広島大学)
- 5) 幹事館の選出について (広島大学)
- 6) 監査館の選出について (広島大学)
- 7) 中国四国地区大学図書館研究集会運営委員会委員の選出について (広島大学)
- 8) 平成23年度当番館(総会・研究集会)について (広島大学)
- 9) その他 (広島大学)

#### 職務別会議

- (1) 国立大学図書館長会議  
1. ラーニング・コモンズの在り方, 運用について (徳島大学)
- (2) 公立大学図書館長会議  
1. 当面する諸課題について (島根県立大学)
- (3) 私立大学図書館長会議  
1. 当面する諸課題について (ノートルダム清心女子大学)
- (4) 事務(部・課)長会議  
1. 利用者増のための諸方策について (福山大学)  
2. 図書館業務の外部委託について (広島大学)

### 出席者名簿

鳥取大学		図書館学術情報企画	
館長	高 阪 一 治	グループリーダー	藤 井 明
学術情報部長	益 森 治 巳	図書館学術情報普及	
図書館情報課長	山 根 博	グループリーダー	江 森 早 穂
		図書館学術情報企画	
島根大学		グループ主査	尾 崎 文 代
館長	平 川 正 人		
図書館情報課長	板 谷 茂		
		山口大学	
		館長	瀬 瀬 厚
岡山大学		情報環境部長	牧 村 正 史
館長	倉 地 克 直	学術情報課長	吉 光 紀 行
事務部長	片 山 淳		
情報管理課長	臼 井 克 巳		
		鳴門教育大学	
		館長	西 園 芳 信
広島大学		教務課長	此 枝 昇
館長	佐 藤 正 樹	図書チームリーダー	吉 田 敬 治
副館長	石 井 道 悦		

香川大学 情報図書グループリーダー	北 條 充 敏	専門員	橘 可奈子
愛媛大学 館長 図書館事務課長	小 淵 港 井 上 俊 彦	高知女子大学 総合情報センター長	山 田 覚
高知大学 図書部門長 研究協力部長 学術情報課長	池 田 和 夫 松 村 仁 松 山 郁	高知工科大学 館長 事務室室長	篠 森 敬 三 濱 田 佳奈子
海上保安大学校 館長	島 田 伸 和	岡山商科大学 課長補佐	奥 田 寿 生
島根県立大学 メディアセンター長 図書情報課長 司書	井 上 厚 史 森 本 隆 裕 喜代吉 見 子	岡山理科大学 事務室参事	西 崎 徹
岡山県立大学 図書班長	小 原 信	川崎医科大学 図書課長	岸 友 子
尾道大学 館長 主任	榎 林 滉 二 渡 邊 徹	川崎医療福祉大学 館長 課長補佐	小野寺 昇 片 岡 美佐江
県立広島大学 学術情報センター長 学術情報課長	中 村 健 一 矢 山 一 広	吉備国際大学 館長	津 尾 佳 典
広島市立大学 館長 主査	赤 星 晋 作 渡 辺 琴 代	倉敷芸術科学大学 館長 事務長	時 任 英 人 須 田 英 二
下関市立大学 図書班長	山 尾 幸 光	くらしき作陽大学 館長 主任	秋 山 博 正 田 淵 博 史
山口県立大学 主幹	町 田 敬一郎	山陽学園大学 司書主任	戸 嶋 美 江
香川県立保健医療大学 主任	関 順 子	就実大学 室長	岡 田 和 敏
愛媛県立医療技術大学		中国学園大学 図書課長	荒 木 満 子
		ノートルダム清心女子大学 館長 事務部長	脇 明 子 浮 田 信 明

情報サービス係長	土 師 裕 子	福山大学	
美作大学		分館長	吉 富 博 則
図書館次長	山 本 久美子	事務長	桑 田 成 年
環太平洋大学		安田女子大学	
司書	奈 良 裕 子	図書館長	日比野 政 彦
広島文化学園大学		近畿大学工学部	
主任	内 方 恵	課長代理	林 田 安 広
日本赤十字広島看護大学		梅光学院大学	
参事	渡 辺 さゆり	司書長	永 見 昌 代
比治山大学		四国大学	
館長	吉 山 裕 樹	館長	西 尾 幸 郎
図書館長	福 田 房 子	主幹	山 本 哲 也
広島経済大学		徳島文理大学	
館長	片 岡 幸 雄	事務長	牧 尾 裕
部長	西 川 英 治	四国学院大学	
課長	岡 田 浩 典	館長	根 本 博 愛
広島工業大学		図書館長	神 尾 哲
館長	景 山 三 平	高松大学	
事務長	井 上 瑞 枝	図書館長	高 杉 和 代
広島国際大学		聖カタリナ大学	
事務室長	奥 田 耕 治	課長補佐	玉 岡 兼 治
広島国際学院大学		松山大学	
館長	中 川 紀 壽	館長	大 浜 博
広島修道大学		次長	仙 波 吉 文
館長	森 川 泉	松山東雲女子大学	
担当課長	佐 伯 雅 幸	図書館係員	武 知 さゆり
広島女学院大学		徳島大学	
館長	森 あおい	館長	際 田 弘 志
図書館長	野 村 香代子	分館長	吉 本 勝 彦
広島文教女子大学		情報部長	五 味 照 明
館長	三 好 康 之	学術情報	
事務長	上 田 博 昭	マネジメント課長	松 本 秀 毅
		学術情報	
		サービス課長	折 原 善 彦

合計 56 大学 98名

## 議 事 要 録

全体会議 ① 13:30 ～ 14:40

職務別会議 14:50 ～ 16:10

国立大学館長会議

公立大学館長会議

私立大学館長会議

事務(部・課)長会議

全体会議 ② 16:20 ～ 17:00

### 全 体 会 議 ①

挨拶

徳島大学長 香 川 征

広島大学図書館長 佐 藤 正 樹

議長選出 当番館徳島大学際田館長を選出  
(会則第9条第2項による)

#### (1) 平成21年度事業報告

平成21年度 総会 (島根大学)

平成21年度 研究集会 (高知大学)

フレッシュパーソンセミナー (広島大学)

ホームページ開設 (広島大学)

#### (2) 平成21年度決算報告 監査報告

幹事館広島大学から決算報告があり、監査館県立  
広島大学からの監査報告と併せて原案どおり承認さ  
れた。

#### (3) 平成22年度予算審議

幹事館広島大学から提案説明があり、原案どおり  
承認された。

(4) 中国四国地区大学図書館協議会ホームページ  
開設に伴う会則等の改正について

(広島大学提出)

幹事館広島大学から、ホームページ開設による  
会誌刊行の停止に伴い「中国四国地区大学図書館  
協議会会則」の改正について提案があり、原案ど  
おり承認された。

#### (5) 幹事館の選出について

(広島大学提出)

幹事館島大学から、「協議会会則」第5条第  
3項で幹事館の任期は2年とあり、現在の幹事館  
である広島大学からの任期が切れるため、後任の  
選出について提案があり、引き続き広島大学にお  
願いたいとの提案があり承認された。

#### (6) 監査館の選出について

(広島大学提出)

広島大学から、監査館の任期(1年)が切れる  
ので、後任の選出については、公立大学と私立大  
学の輪番になっているので、平成22年度は私立  
大学の岡山理科大学に願いたいと提案があり、  
了承された。

(7) 中国四国地区大学図書館研究集会運営委員  
会委員の選出について

(広島大学提出)

広島大学から、「研究集会運営委員会申し合  
わせ」第3条第1項及び第2項に「国立・公立・私  
立大学から各1館を総会において決定する」とあ  
るので、国立大学は広島大学、公立大学は県立  
広島大学、私立大学は日本赤十字広島看護大学にお  
願いたいとの提案があり、承認された。

8) 平成23年度当番館(総会・研究集会)につ  
いて

(広島大学提出)

広島大学から、平成23年度の当番館につ  
いては、総会は鳥取大学、研究集会は愛媛大学にお  
願いたいとの提案があり、承認された。

#### 9) その他

広島大学から「業者からの情報提供」につ  
いて総会の休憩時間等で、業者がブースを設置してデ  
モやパンフレットなどの情報提供について申し出があ  
った場合にどう対応すべきかについて意見交換をお  
願いたいとの説明があり、幹事館の広島大学と次  
期当番館の鳥取大学で、具体的な運用について相談  
し、その結果を各加盟館に報告することとした。

## 職務別会議

### 国立大学図書館長会議

(議長： 徳島大学 際田館長)

協議題 ラーニング・コモンズの在り方、運用について

(議長)

ラーニング・コモンズは新しい図書館の姿であると考えています。図書館に対する学生のニーズは高く図書館の大事なテーマの一つであります。提案理由について、徳島大学折原課長から説明をお願いします。

(徳島大)

平成20年度末に本館附属図書館の改修が行われ、2階にあった玄関を1階に移し、1階スペースを利用者に広く開放し、動線の改善により、西集密書庫へのアクセスがよくなり貸出数が倍増しました。

1階をコミュニケーションゾーンとして位置づけ、カフェテリア・視聴覚コーナー・ブラウジングコーナーを設置しました。カフェテリアでは学生が話し合いをしながら勉強している姿をよく目にするようになりました。

今後どのように協調学習に図書館がソフト面で協力していただけるか、各館の実情やご意見を伺いたく提案させていただきました。

ラーニング・コモンズについてはじめてお聞きになれる先生もいらっしゃるかと思いますので、参考までに、徳島大学附属図書館の現在までの経緯、時代背景や時間経過に伴う変化について説明いたします。

簡単に3つの時代に区分をしてみます。

1990年代前半Webが浸透していなかった時代、伝統的な学問の世界で学生は、一般教養を身につけており、指導についてもそれほど難しくなかったかもしれません。

1990年後半になりますと、電腦空間の拡張ということで社会変化が起こります。Webの拡大、ブロードバンド化、学内LANの定着にあわせて、図書館では学内LANでのサーバクライアントデータベースの導入がありました。学生は、まだ冊子体での利用が中心で、利用指導も冊子体と口頭で行っていました。

2000年代に入りますと、一気に電腦空間が広がり、電子ジャーナル化の波が押し寄せ、教員は図書館に来ないリモートユーザーになってしまいました。

学生に対してどのようにサポートしていくかが図書館の主な課題となりました。その学生は新人類と呼ばれる世代となり、図書館の利用に際してエチケットやマナーについて以前より強く指導していく必要にせまられています。アメリカでは、知識の伝達から知識の創出という学部学生教育のパラダイム転換が起こっており、学生は自主的に学習する傾向に変わりつつあったわけですが、それをそのまま日本にあてはめることはできない時代でもあります。徳島大学附属図書館では情報リテラシー教育のための「情報通」というWeb版での情報検索ガイドブックを作成し、パワーポイントで講習会を開催する形式に変化しています。

さて改修後、1階のカフェテリアはいつも満杯状態、2階はサイレント・ゾーンとして、パーティションシステムや個人ブースを設置しており、静謐な学習空間としてよく利用されております。このように施設は整いましたが、今後どのように学生の自主的学習を支援するかが課題と思っておりますので、皆さまの図書館の状況をお聞かせいただきたいと思っております。

また利用者のアンケートでは、学習場所の約6割が図書館であるという結果から、図書館の学習空間としての役割を再認識いたしました。

その他、パソコン機器の増加や図書・雑誌資料の充実などの要望がありますが、人的支援がそれほど求められていないのは残念です。これを充実させて、図書館職員の必要性についても高めていければと思っております。以上で説明を終わります。

(議長)

それでは、他の大学の現状についてお聞かせいただき全体的な議論に移っていききたいと思います。

(広島大)

広島大学では、ようやく施設整備が整ってすでに動いており、利用度が15%アップしております。

学生を図書館に呼び込むことには一応成功しておりますが、正式なオープンのテープカットは今月23日を予定しております。アンケートは毎年行っておりますが、学生の要望はそんなに大きくかわっていないようです。むしろ図書・雑誌の要望の内容が、質的に軽くなっております。学生は見栄ではなく本音を言います。専門図書でなくても読みたい図書を素直に欲しいという傾向にあります。

自由記述欄では、カウンターの応対が悪いと率直な意見があります。私は今まで、司書は怖いものだと

いう認識でしたが、図書館はサービス機関であるということがこれからの重要課題であります。

ラーニング・コモンズという言葉は、館長になってはじめて聞きました。私は、図書館は静謐に孤独に学問する場所であると思っておりまして、本当はいろいろな、グループ学習は青空の下で行えばいいとも思っています。結論としてはほっとけばいい、学生が自分で考えて判断すると思っています。偏っているかもしれませんが以上が私の意見です。

(山口大)

山口大学です。資料を持って来ましたのでそれを見ながら説明したいと思います。ラーニング・コモンズという考え方そのものはアメリカが始まり、90年代は、インフォメーション・コモンズという概念からラーニング・コモンズへのパラダイムの変換の中で山口大学は大学憲章を作りました時に、「協働」という言葉を重要なキーワードにしました。学生同士が、また教員と学生が協働して研究や学習することがきわめて重要であり、そこに教員や学生のモチベーションがアップすると思います。

ラーニング・コモンズのコンセプトにそういった「協働」というものを入れて、大学改革でハード面、ソフト面の両面に取り組んでまいりました。

と申しますのは、ここ数年、学生の利用が減少しておりまして、その歯止めとして、学長裁量経費で改修・改築を行いました。ゆったりとソファに座って読書できるリーディングコーナーや書庫の間にイスを置くなどの利便性を高めました。また、天井を低くして全体の空間を広く見える形で改修し開放感を出しました。趣味や旅行の雑学的な資料などをゆったりおしゃべりしながら利用できるスポットや就職に関する情報にアクセスできる就職支援コーナーやTOEICコーナーのほか、携帯BOXを新設しました。

その他、市民に開かれた図書館を目指しておりまして外部から来られた方にもいごちのいい図書館として利用できるよう努力しました。その結果、中央図書館で昨年度から4万人増となっております。以上のようにラーニング・コモンズという考え方を解釈しまして頑張っているところです。

(鳥取大)

今月22日に、耐震改修オープンニングセレモニーを行いました。県立図書館、市立図書館、環境大学から館長に出席いただきました。その内容や基本的なコンセプトは、ホームページに掲載しております。

私の専門が西洋美術でありまして、建築のデザインにつきましても、施設部とすり合わせて私の意見もとり入れてもらいました。

図書館という場所を使って快適に長時間学習ができる環境を作っていくことが大切であると思います。そういう点で、ラーニング・コモンズに注目しています。従来、部分的に飲食できるコーナーがありましたが、今回もはっきりと打ち出しました。また、個々の学生が利用できる空間や数人やグループで利用できるコーナーを新設しました。鳥大キャンパスは、一般的にワインレッドカラーでなっておりまして、ずっと居たいとか入りたいなどの空間心理が大切に、建物の外観のみならず、什器の色合いをトータルに考えています。図書館は、キャンパスの中心にあり、また知の拠点であることから可視的にあたたかみのある暖色系にしています。学生もよく入館しているようです。学生の要望が変わってきており、アメニティという快適性が強く求められているように思います。これは、大学経営の観点から考えますとオープンキャンパスがありますが、受験生がこのキャンパスで過ごしたいと思うのかどうか、そのキャンパスの中でのクリエイティブが大変重要であると思います。私は、他に副学長として広報担当をしておりますが、図書館は、今まで大学の縁の下として黒子に徹しすぎたのではないかと思います。今後は、図書館職員としての力量を発揮しつつ大学全体が取り組んでいる中期目標の中での図書館の役割や位置づけを大学にアピールしていく必要があると思っています。今回の改修で、図書館のプレゼンスができたと思っています。

(愛媛大)

平成19年度に改修があり、1階が学部・教務関係のセンターになりましたが、廊下まで取り込んで閲覧スペースの確保をしました。その中で、他の部屋とは遮断した約30人が入れて、少ししゃべれる部屋を設置しましたが、これがラーニング・コモンズに近いコーナーです。飲食物は原則禁止ですが、ペットボトルの利用は認めています。他の図書館の状況を聞いてうらやましく思ったのですが、今のところスペースはありません。また、特に困っているのは医学部と農学部に分館はあるのですが、医学部分館では、分館長室や職員の更衣室まで雑誌を置かざるえないラーニング・コモンズを作れない手狭な状況です。3月に、図書館の建物とは離れているのですが、大学ミュージアムの新設があり3階に合計

5つの自習室他や協働学習をするスペースもありますが、それに近いものを作る努力をしているところです。

(広島大)

本学では、ラーニング・コモンズは作ったが、今後どう活用するかが問題であると思います。ラーニング・コモンズの共通認識としては、協調学習や今の学生の気質として集団での学習、いごちがいい環境というのが今のところの理解であり、目的があって作るという普通の投資の仕方と違うのでないか、どうしても欲しいから作ったというところできあがって正直内心積然としないのが私の認識です。

どう活用するのか、つまりどういう活用の可能性があるのか、それが本日のテーマであると思います。

「すべきこと」と「すべきでないこと」「なしうること」と「なしえないこと」がある。すべきことはもちろんやりたいのですが、何をなしうるのか、協議の趣旨だと思えます。

(議長)

まさに、先生のおっしゃるとおりで、館長を拝命しましてラーニング・コモンズというものを考えるようになりました。実は、私の所属する薬学部が数年前に改修しまして、スタジオプラザというところで飲食ができるようになり学生が集まるようになりました。団体で学習する学生の方が下宿で勉強する学生に比べて国家試験に合格する率が高い。これをどう考えたらいいのか。先ほど勉強は一人でするものという意見がありましたが、今の学生は一人では勉強できないのではないか。こうした学生にどうラーニング・コモンズは対応していけばいいのかと思います。

(愛媛大)

私の所属は法文学部で、経済学分野の研究室にいますが、同じ学部内の人文学科の学生たちは自由に使える部屋がありまして、辞書や図書をおいて約20名の学生が部室のように集団で自由に使っています。経済・法律系の学生には、そのような部屋はないので非常に不満の声があります。先生の中には研究室を学生に提供したり、廊下の一部に囲いを作って自習室として提供しているところもあります。そういう意味では、ミュージアムに設置した個室の活用についてはありがたいと思っています。本当に作りたいのは、学生たちが専用で使える学生がゼミ単位で使える部屋があるのが望ましいのですが、かといって図書館の大部屋のような閲覧室でなく、その

中間のような部屋を提供できるかを考えています。

(広島大)

留学生にとっては、図書館にラーニング・コモンズがあることによって、留学生が集まりやすいと思います。その場合、呼び水が必要です。図書館長と話す会を始めたのですが、外国留学生2人の中にインドネシアの学生がいて先進国の大学図書館はすばらしいと感嘆したそうです。学長の方針により図書館の時間外のアルバイトとして学生を雇用していません。カウンターにも留学生がいて、「今、何語と何語ができる院生がいます」の札をたてています。それだけで院生がホットして図書館に来やすくなっており、留学生も利用でき図書館も活性化するというお金がかからないラーニング・コモンズの利活用で一石二鳥であると思っています。

(山口大)

本学では学生協働事業ということで、40名の定員でボランティア的な活動をしてもらい、学長裁量経費で時給を支払っています。女子は職員と同じエプロンをしており、図書館スタッフとコミュニケーションをとりながら、図書館サービスを行ってもらっており大変利用者に評判がいいです。

(岡山大)

大学では、いろんなところに空間ができますね。協働学習の中で図書館が全部かかえこむ必要はないのではないかと思います。学内で図書館がどの程度をやるのか、すみ分けをしながらいって行くことが必要で、ポイントとしては限られた予算の中で、今のスペースをゾーニングして再編成するか共通認識を図るかだと思います。

昨年いくつかの大学を見学をしましたが、名古屋大学ではサポートする院生がいて、一つはITサポーター、もう一つはレポートを作成するサポーターがいます。さきほどのボランティアより、もう少し高いレベルでのレポートの作成指導をラーニング・コモンズとして行っているようです。しかし、こうした活動が図書館の仕事なのか、少し疑問に思えます。ただそうしたものがなければ、先ほどの話の中で効果といった話になった時に、具体性がないとも感じています。他に私学の東谷大学を見学しました。

文系の学部が一つの単科大学ですが、図書館建物の1階には博物館もあり、最上階に協同研究室を設置し、一フロアに院生の助手が6名ぐらいおり、私的な学習会の指導などを行っています。下の階の図書館資料を利用した活動として図書館とセットで考え

ており、場所だけを提供するだけでなくいろんな工夫が必要だと思います。現在、耐震改修を考えていますが、学内からの予算措置について配分していただけるよう知恵をしばっているところです。

(海上保安)

本学では、皆さまの図書館とは全く違っておりまして学生数が約200人ぐらいです。

今回はじめてラーニング・コモンズということをお聞きしまして、当初カフェテラスや集まりの空間を提供する場所のこと、また、図書館とは図書を読むのがメインであることから図書離れのとしての改善する方法であると理解していましたが、今までの話を聞いておきますと、まず図書館に来てもらうのが先決でないかとも思います。

本学の図書館は12万冊ほどの小さな規模ですが、図書館にどうしたら学生が来るようになるか？カフェテリアもその一つですが、掃除などで職員に負荷がかかるのではないかと心配します。ただ、スペースを設けることはいいなと思います。また、本学の学生は寮で集団生活をしておりますので、一人になる部屋は必要であると、意見を伺いながら感じております。疑問に思ったのは、グループ研究は学生にとって必要ではあると思いますが、それは本来図書館の仕事かな？とも感じました。

ラーニング・コモンズが今後発展していく中で、本から離れてもかまわないというスタンスで行うこともいいのかなという気がしました。皆さまのアイデアをいただきたいと思います。

(広島大)

ラーニング・コモンズを利用する学生が図書館の真の利用者かどうかわかりません。ただ、おしゃべりに来ているだけかもしれません。学生の読書離れは、少なくとも本学の場合は深刻です。学生がすっかり変わりました。学生を教室でしつけなければならない状態です。遅刻や携帯などゲームセンター感覚で、授業を受ける学生もいます。ただ、あの手この手と来てもらうことが大切ということで、オープンキャンパスでは、本館、分館間でスタンプラリーを行い全て回ればグッズをプレゼントするなどをしています。

(鳴門教育大)

ラーニング・コモンズに可能性があるのだろうか？ということで、本学の場合を考え場合、教員採用試験をグループで行うことについて申し上げますと、全国第5位の教員採用率になり全国的に上がってき

ておりまして、勉強の方法は個人より3~4人のグループの方が成果が上がるということが報告されております。1階に、自由に学生が会話できるコーナーを設置したところ、いつも学生が集まって会話しながら勉強しています。ラーニング・コモンズということをお考えますと、こうした空間が、勉強しやすい環境ということで、今の学生にあっているようです。今まで、図書館は静かなシーンとしている場所という考えがあったのですが、知の創造というものは一人でなく、協同で対話の中で新しい世界を知っていく、説明をお互いに行うことで知識を構成していくものだと思います。

ラーニング・コモンズは、図書館というものの考え方を展開していくものの一つであり、積極的に学習の場を提供することが必要であると思います。

(広島大)

会話のできる場所、伝統的な静かな閲覧室、個室など全体としてとらえることが必要で、多様化してきております。

(高知大)

本学は6階建てで、上の階に行くにしたがって静かな場所となっております。5階はパソコンを置かず、3~4階に置いています。1~2階はグループ学習室や個室などがあり、唯一カフェテリアがないため来館者が増えてない理由なのかとも思っていますが、一方飲食を許可した場合のマナーの問題があり、検討しているところです。

(島根大)

比較的静かに勉強するのがメインの基本的な図書館です。

携帯電話は、ブラウジングコーナーで静かに利用してもらおう試行を行っています。ラーニング・コモンズの計画をしているところで、奥に行くにしたがって静かに利用してもらおうなどのゾーニング分けを計画しています。今のところは、空間をいじれないのでサービスを充実する形での活動をしています。

図書館職員がおすすめ本コーナーを設置して、本を立ててブックコンパスのタグとしてコメントをつけると非常に利用されています。1階のパソコンルームでは、いつも満杯の状態です。

(広島大)

昨年からはブックハンティングを始めました。学生は、志の低い図書を選んで、大変困っています。

(徳島大)

本学では、ブックハンティングをする学生に対して、



先輩や同輩からも推薦本の依頼があるようです。全学部の学生を対象として行っています。

(広島大)

本学では、1年生だけで応募を募り、抽選で選んでいます。本を選ぶのではなく人を選ぶことが問題なのかもしれません。レベルの低い図書を選んでおり知的な香りがしない。

(徳島大)

ラーニング・コモンズは学生の視点で実施されることとなりますが、教員が電子ジャーナルの影響で図書館に来ないのが現状です。教員をひきつける場がないと有効活用できないと思います。

先生も、学生と一っしょに図書館を利活用することも、ラーニング・コモンズの考えかたの中に入れてもいいように思います。

(議長)

さて、まとめなければいけないのですが、ラーニング・コモンズは、入館者増加のためには必要というマイナーな動機か、将来の姿というポジティブな動機かわかりませんが、価値と意義というものは、ここに出席されている先生方もお持ちではないかと受けとめました。学生気質が変化にどこまで応じていか、どこまで応じていいのかということ、また、それは、図書館の仕事であるべきなのかという問題があるように思います。

(鳥取大)

補足ですが、食事は、強い匂いのするラーメンなどは禁止です。私は図書館の職員と長くつきあってきましたが、図書館資料の形態が変わってきました。ストックとしてどういう形として保存するのか、フローとしてどう活かすのか、それから利用者が利用する形態、例えば利用者の学習空間、先生との関係など、日本の社会の構造が変わってきた。大学で学習する形態と意識が変わってきたように思います。それに、図書館はどう対応していくのか、高等教育機関としてのどう学生の学習を支援していくのかを考えていく必要があるように思います。最近、情報アクセスに器用さがある学生が多くなってきたように思います。ラーニング・コモンズは、今後こうした学生にどう対応していくかが、継続して考えていく重要な課題の一つになるように思います。

(議長)

貴重なご意見をどうもありがとうございました。

## 公立大学図書館長会議

(議長： 島根県立大学 井上メディアセンター長)  
協議題 当面する諸課題について

(議長)

議題としまして、昨年に引き続き当面する諸課題です。図書館が抱えています様々な問題につきましてお互いに共有して解決の道を図っていこうということでもよろしく願います。まず、新しいメンバーの方もいらっしゃいますので、それぞれの自己紹介と当面する諸課題についてご紹介いただけたらと思います。

(尾道大学)

始めて参加させていただきます。図書館では、スペースの問題があります。理系の先生は図書を廃棄してはどうかとの意見もありますが、蔵書構成をどうしたらいいか検討しております。また、学生の読書離れの問題があります。図書館機能の拡大のために蔵書数を増加させるため、退官する先生から図書を寄付していただいています。

(高知女子大学)

図書館長9年目になります。大学の改革の中で、高知工科大学との関係がどのようになるか、また、市内と郊外の2つのキャンパスで構成されていますが4月1日から郊外に本部及び図書館も移ったのですが、現在の図書室を運営しながら騒音の中で10月の開館を目標に改築中です。今、ハードとして建物の問題を抱えているのですが、ソフトとして図書館職員の配置等の問題がありまして、市内に短期大学があり、夜間開館を行っておりますが、長時間に対応する職員がいないことや担当課長が各キャンパスにいるため、なかなかコミュニケーションがとれない状況にあります。

(高知工科大学)

開設時公設民営のため、今まで私立大学でありましたが、公立法人化により今回こちらの会に入るのは初めてになります。大学としていろいろ問題はありますが、もともと工学・理学系の学部でありましたが、新たにマネジメント学部の設置により図書購入の要望が強くなっております。現在、スタッフが正規2人と派遣3人で運営しておりますが、今まで資料の電子化を中心とした電子図書館であり、資料も電子ジャーナルが中心であったため、図書を購入して整理する作業がなかったのですが、図書を購入することによる方向転換のため、人出不足の問題が顕著になってきております。

逆説的に言えば、スペース的には問題はないのですが、蔵書が少ないため学生が図書館に来ません。そのため、話題本などの軽い本を揃えようとしたところ、県議会で大学図書館資料として相応しくないなどと問題視されたため、学生からのリクエスト購入として取り組んでいます。今後ですが、県側から高知女子大学との連携に取り組むように言われておりまして、図書館機能をどう整備していくかが問題となっております。

(広島市立大学)

今年度から公立大学法人になりまして、図書館長が全学教務委員会副委員長や全学共通教育委員会の副委員長を兼ねていろんなことをやっています。学生の活字離れや資料の電子化に伴い来館者数が減っている中で、学習 研究支援機能の強化・充実に取り組みとしてガイダンスの充実発展に力を入れています。共通教育にアカデミックスキルや初年度教育の基礎演習として1クラス10名程度図書館ガイダンスを取り入れています。また、知のトライアスロン(知る・考える・伝える)の事業として去年の秋ごろから試行しております。本学の3学部の特徴として読書・映画鑑賞・美術鑑賞を含めて標準コースとして半期に7点以上先生からの推薦図書100冊の中で2冊を含めて書籍5冊以上を各先生にお願いしております。具体的に基礎演習として運動して具体的にどう取り組むかが課題です。また、グループ学習室の整備をしなくてはいけないと思っています。図書館の利用については、個人で静かにすることが基本ですが、グループでコラボレーションスキルを磨くことが大切です。本学では、4から5室しかありません。電子ジャーナル対応にも高額であるため資料費や選定方法についても課題の一つです。その他、休館日と開館時間を検討していく必要があります。人件費の関係もありますが、全学2500人への対応として土日の利用者の需要率から検討しています。

(県立広島大学)

図書の問題で、現在の状況をお話します。他の大学と共通の話題であると聞いておりましたが、はじめに「図書のスペース」の問題があります。3つのキャンパスにわかれておりますが、特に文系の広島キャンパスはたまる一方で、いかに本を捨てるかということで管理規程を変えました。寄付の受付にも制限をつけました。それから「電子ジャーナル」の価格の高騰に対応した整備や精査について、法人組織

から強く求められています。それから「読書離れ」は確かにありまして、女子大学当時は全国で有数の図書の貸出率第3位になったこともありましたが、統合した組織となって学部やキャンパス間に大きな差があります。国際読書年ということで、企画や啓発について検討しているところです。

(島根県立大学)

昨年、いきなり図書館長になりまして2000年に4年制になって8年たちましたが、「浜田と出雲と松江のキャンパスの図書システムの統合」で大変でした。次に「図書の廃棄」について苦慮しておりますが、島根大学の元学長が本学にこられまして、島根大学での経験から売りたいということで検討しておりますが、手間ひまがかかるようです。それから先生の購入図書を登録していなかったものがありまして法人化する時に問題となりました。公費で購入した図書がなぜ資産登録していなかったのかということで現在登録中です。また、言語学者の先生の文庫が約2万冊ありますが、多言語かつ複雑で本学の司書では登録できないので外部委託せざるえないということですが、アラビア語関係の資料は相当お金がかかるということです。それから学生の読書離れも問題となっております。昨年から学生図書委員制度を設けて10名程度集めまして「お茶ノ水女子大学」に視察に行きました。学生が自主的に活動しておりますしてそれを参考にしております。学生に図書選定の権限をあたえて学生が読みたい本を選書してもらっております。また、若い先生からの推薦図書やGPでの英語授業を必修としたことから入館者数が増えております。電子ジャーナルの問題では、委員会で見直しを行いました。3キャンパスで統一的に選定し、利用者が少ないものは廃止しました。図書館とメディアセンターがいっしょになっておりまして、機関リポジトリの業者の選定を行っており、10月からはじめる予定です。セキュリティは、今は単純に取り扱い注意ということにしていますが、安全性を高めていく必要と、事務局からはそのためにこれ以上仕事を増やさないでほしいとの要望がありその調整について苦慮しております。

(議長)

質問はありませんか？

(?)

リポジトリについてですが、図書館の狭歪化と電子ジャーナル、そしてリポジトリへと関連してくると

思いますがどんな形のリポジトリを構築しているのでしょうか？国立大学図書館協会で議論されておりますが、電子ジャーナルに対応できるコンテンツが構築するまでにはなっていないとは思いますが。

(高知工科大学)

今年、DRF 四国大会を開催しました。情報化ということで、わりと早い段階から取り組んでおりまして1人が専属の配置にしております。博士論文の電子的公開にも携わっています。コンテンツの数はそれほど多くはありません。リポジトリは、電子ジャーナルの高騰に対抗するというのが1つのねらいがあります。つまり、学内の先生や近くの大学の先生の論文が読めない、読むためには高額な電子ジャーナルを導入する必要があるという現状から何とか読めるようにしようということです。フリーということに力点を置いております。高騰する電子ジャーナルを背負っておりますとこのまま倒れてしまうことが予想されますので、情報発信も利用もできない場合に備えておくということです。

(?)

学会の著作権についてどうされてますか？

(高知工科大学)

人的にも不足しておりますのでDRFという団体に加盟しており、団体として学会と交渉しております。大学が連携すると圧力団体になりまして、和雑誌系では、出版社と強く交渉できます。和雑誌系は校正前原稿は、ほとんど許可がでるようです。

大学全体から見ますと、総合大学で人文系の先生の中には、学術的な面白い論文や記事、またはエッセイ等をリポジトリに載せることによりずいぶんアクセス数が伸びていると聞いております。

(?)

看護系などは、学会が著作権をにぎっていますが他の学会の領域はどうなんでしょうか。

(高知工科大学)

投稿した段階で、ほとんどの学会ではリポジトリの登録について制約がかかります。ですから、紀要などの学会に登録しない学術論文は多に利用されているようです。リポジトリに投稿すれば、検索できますから、アクセスはありますね。

(島根県立大学)

3つキャンパスがあって足並みがそろわないのが現状です。看護系の先生からは個人情報の論文が多いので登録することは避けたいとの意見があります。紀要は公開するのが原則ですが、できることから

登録をすることにしています。それ以外は個別のケースで交渉しています。

(?) 広島県大学機関リポジトリ (HARP) に登録しています。

(?) 紀要の位置づけですが重視する学部と意味がないという学部があります。どう考えておられますか？

(?) 教員の評価項目に入っています。リポジトリに登録することで今後ポイント化しようとする動きがあります

(?) 本学では国際学部があるのですが、いろんな分野がありまして、お互いに査読しあうのですが、専門家からみたら問題があると思うものもあります。

(議長)

次に学生の読書離れについて意見ををお願いします。

(?)

学生図書委員について地元の新聞社から報道がありました。他大学の例では、学生の役割は書店で図書を選ぶというのが通例でしたが、お茶の水大学では学生が選んでいる本のコーナーがあって活発に本の貸出が行われていました。学生目線での選書ですからあたり前ですが、先生の推薦図書はアカデミックで、授業等で使わなければ回転しません。学生図書委員には、お菓子やゴミのお世話などもやっています。委員に学生が多く10名程度受け入れて活動してもらっています。1年からやってもらうと4年生になるとかなりの戦力になります。完全にボランティアでアルバイト代はありません。本は後援会費で賄っています。月1回に定例会をやってそれぞれの課題を話し合っています。お茶の水では図書館で授業を行っており、一般の方が立ち聞きしていてもかまわないようです。設備よりも中味であると痛感しました。

(議長)

次に図書館の学術情報支援について意見ををお願いします。

・問題意識がないと効果がないわけで、需要があった形で講座を開いたりしています。

・先生の写真展をフロアで開催したり、地元の祭りなどの写真展示会をすると学生がよく図書館に来ます。集客には効果がありますが、そのまま図書の貸出には結びつかないのが現状です。写真などのメディアの文化的発信を図書館で行うことも、ひとつの利用になるとも思っています。ガイドランスの充実ま

ではいかないのが今後の課題です。

(山口県立大学)

各学部によって図書館資料の使い方が違いますので、各学年の図書部会の学生と司書が相談して学年によって内容を変えてガイダンスをしています。みなさんにお聞きしたいのですが、読書の定義について卒業論文などの研究と一般図書の貸出がありますが、どちらを想定していますか？本学では、研究のための読書を考えています。

(尾道大学)

本学では、研究では各ゼミにまかせて一般図書を考えています。課題図書コーナーをとって大学時代に読んでほしい図書を先生からコメントをつけて利用を促しています。また、オープンキャンパスでは、図書館職員が、尾道に関する資料展示コーナーを設けています。

・読書をどう位置づけるか、ということですが、専門的に言えばデータベースをいかに利用するかとかまた、教養的な読書という観点からみれば感銘を受けた図書にエッセイをつけて紹介するなどがあると思います。

・一般の読書については、推薦図書を中心に考えています。

(高知工科大学)

・科目としてスタディスキルというのがありまして2単位を与えるのですが、図書館ツアーがありまして、文献のための同じ図書を25冊購入しています。  
・図書館の本は難しすぎるというアンケート結果がありまして、本離れもそういうところがあるのかもしれない。

(議長)

他になにかありましたらお願いします

(高知工科大学)

スタディスキルの講師は教育講師という専任の教員制度を作りまして、1年生に対しては勉強の仕方を、2年生に対しては人間関係を、3・4年生は就職指導を行っています。100人当たり2人の配置です。主に年配の方を採用しています。採用は公募です。

(島根県立)

お茶ノ水大学では、学生のための就職活動関係の図書を置いている場合もありますが、そういった図書を置くことも学生の図書館利用の一つと考えてもいいかとも思います

・明治大学のような図書館活用法として単位を出している大学もあります。

(議長)

本日は、有意義な議論ありがとうございました。

## 私立大学図書館長会議

(議長：ノートルダム清心女子大学 脇館長)

協議題 当面する諸課題について

(議長)

議題としまして、昨年に引き続き当面する諸課題です。まず、新しく館長になられた方もいらっしゃいますが、これまで利用者として図書館を利用された立場でのご意見も含めて、自己紹介と当面する諸課題についてご紹介いただけたらと思います。

(松山大学)

今年の1月から館長しております。本学の課題として3点申し上げます。まずはじめに、マイクロ資料関係のための専用の室がありません。湿度管理はしているのですが、劣化が進んできております。

デジタル化には多くの経費がかかりますので、優先順位を決めることを検討しています。2点目として、研究室の紛失図書の問題です。学生の場合は現物で返却をしてもらっていますが、教員の場合、退職時の紛失本の場合、慣例的に不明本として処理して強く返済は求めていなかった経緯がありまして、資産としてどう扱っていいのか是非他大学の例を参考としてお聞きしたいと思いますのでよろしくおねがいします。3点目は、書庫の狭隘化です。教室を書庫にできないかも含めて苦慮しています。

(四国学院大学)

来年の3月で定年になりますが、10年間館長の職を任務しております、異例なことだと思います、いろいろな思いがあります。各大学にとってさまざま問題があらうかと本学の場合、90年代が2500名以上在学していましたが、現在1500名余りとなっております。また、この2、3年間、図書館の予算も減ってきていますが、大学全体の中で図書館がどういう役割を果たすか、迎え入れた学生を放任していたのではありませんか、ていねいな指導をしていなかったのかの意を強くしています。教員によりグループオリエンテーションを実施していますが、図書館がどう寄与できるかを考えています。今年のオリエンテーションでは、学校に来たら、必ず1回は図書館に来てくださいと申しました。図書館は2006年に新築したばかりで、23万冊の図書と2000種の雑誌があります。図書館に来れば気持が落ち着き、何か出逢い

があり、読書に対する感動もあります。「感動をおこさせる図書館」「出逢いの図書館」を目指して、館長としてそういう仕事をしてきたか、その1点について考えています。

(四国大学)

図書館利用率アップが課題です。そこに図書館存続の意味を見出したいと考えています。予算は前年に比べて10%削減ですが、雑誌につきましては、円高で少し助かっています。図書館での自学自習については、他の機関である学習支援センターが飲食可能で、専任のスタッフがいることからライバル関係にあり利用者をとられています。学習支援センターで啓発された学生を図書館でどう利用してもらうかについて、システムを考えていく必要があると考えています。

(福山大学)

本部30万冊、分館3万冊を所蔵しています。学生がスモールディスカッションで、議論ができる個室スペースがあります。また、薬学系の学生は、グループディスカッションしていける質疑応答できる習慣を身につけるようにしております。今後、将来的に必要なに応じて個室スペースについて検討していきたいと考えています。

(広島文教女子大学)

館長として3年目になります。予算が削られておりましてシステム更新が2年程凍結されている状態です。正規職員は2名のため、さまざまな対応に苦慮しています。図書の在庫確認については、個別研究室図書の場合は、研究室ごとに対応してもらっていますが、毎年退職される教員からの不明本があります。5年前から、読書感想文の募集をしており、学長賞ほか3賞を設けており、10件ほどの応募数ですが、図書館の利用促進に役立っています。図書館の読書公開講座を30年前から行っており、学外からの参加もあり好評です。

(広島女学院大学)

館長2年目でございます。本学図書館では、ラーニング・コモンズを予算をかけずにどこまでできるか？ということで4月に開設いたしました。ただし予算は全くとることができなくて、静かなゾーンとディスカッションゾーンには分けることができなかったのですが、直面している問題として「ラーニングアドバイザー」と読んでいる院生に質問の回答をお願いしており、週に5日、人を配置するのは難しい状況です。皆さまからアドバイスや指導にあたる

学生のためのマニュアルがあれば教えてほしいと思っております。また、本学は、基督教系の大学ですが日曜日開館をしておりますが、本部から費用対効果はどうなのか？という指摘がありました。省エネ対策について取り組んでいる大学があれば教えていただきたいと思っております。

(広島修道大学)

館長3年目です。一番困っているのは学生の資料利用の促進化です。先ほどの四国大学さんの話にありましたように自学自習の動機づけと習慣化の問題があります。年間300日開館日数の中で、22万から25万冊の貸出冊数があります。図書館利用の状態変化では、マナーや学術図書資料要求があります。学生のブックハンティングや学生によるカタログ選書、大学院生のピアサポートで気楽に質問回答を実施しており2年目になります。学習への意欲づけのために、教務サイトのカリキュラムとの連携をテコにできないかを考えています。

(広島国際学院大学)

この4月から館長になりました。4月に図書館ガイダンスを実施したところですが。学生が自然と集まってくる環境づくりのために、グループ学習室の利用、ライブラリカフェがあります。予算が年々減額している中で、教員では、外国雑誌を減らさざるをえない状況です。学生にはできるだけ影響しないようにしておりますが、娯楽雑誌を寄贈で対応しており、学生がほっとできる環境づくりを行っていますが、他の大学の状況を教えていただけたらと思っております。

(広島工業大学)

館長1年目です。昨年、外部委託を積極的に検討しましたがデメリットの方が多く、いろいろ問題点がわかってきまして実施しないことになりましたが、私が、館長になりまして再精査することになりました。私を入れて職員14名で、その内3名が夜間対応も含めて外部委託をしています。運営面では、予算減のない形で動いています。問題は利用者をどうやって増やすかということですが、10階建ての新しい建物が建ち、3階にラーニング・コモンズを設置して一般教養的な図書を置いているのでそちらの方に学生が流れているようです。管理者がいないので利用者の把握が正確にできておりません。大変驚いていることは、完全開架式にもかかわらず、紛失本がほとんどない状況です。利用者を増やすことと外部委託の問題が大きいと思っております。図書館が

学内において地位向上をねらいまして、1年の前期科目の1コマを、図書館の利用方法などの説明として90分担当することとしました。入学時のオリエンテーションだけでは、図書館を理解することは難しいということで、図書館を見直してもらって更なる利用増進になればということで対応しております。

(広島経済大学)

図書の利用者は、何回も利用するリピーターと全く利用しない人に分けられると思います。授業で使わない場合は図書を必要としないので全然利用しないわけです。近年の傾向として、学生がおとなしくなっているように感じます。悩みを持つ学生が増えているようで学生相談室が頻盛しています。こうした学生の質をあげるために、図書館がどうあるべきか、「本」と親しむという視点から検討する必要あると思います。また、先生が忙しく、十分に選書をする時間がなく、良書が揃わない懸念があります。リポジトリに対して先生の全員参加ではないのが今後の課題です。

(比治山大学)

4月に館長になったばかりです。学生の図書館利用の問題については学生の利用が中心ですが、その他大学に求められている課題として地域貢献があります。地域への図書館の開放についての対応として、閲覧・コピーサービス・貸出等、他の大学の状況を承りたいのでよろしくお願いします。

(くらしき作陽大学)

ただ今のご質問ですが、学生と同じ条件で地域の人に利用してもらっています。現状では、年間約100名程度の利用ですので問題はございません。ただ、誰でも入館できますので、利用カードがない人は大学本部の事務室で受付してもらっております。松山大学さんの研究室不明図書の取り扱いですが、原則現物弁償してもらっています。ない場合は、現金での弁償となります。また、退職時だけの対応では問題が発生しやすいので、毎年リストでチェックをお願いしております。それから、女学院さんの費用対効果についてですが、日曜日は開館していませんが、図書館の光熱費について厳しい指摘がありますので、センサー機能で照度の調節が可能となる電球を使っております。また、お尋ねしたことがあるのですが、研究室から図書購入票を提出してもらって購入手続きを進めますが、その研究室の主査の決裁がないと本が購入できないしくみとなっている

ます。そのため、主査が夏休みや年末等で大学にいない場合は、図書の購入が滞ることがあります。他大学の状況が知りたいのでよろしくお願いします。

2～3年前に、岡山で全国図書館大会がありましたが、図書館への予算が減少する中で、図書館そのものの役割や価値が低く見られてきているように感じております。館長として7年目ですが、図書館の業務と大学教育をリンクして研究の活性化によって図書館の必要性を高めていけないかを模索しております。現在職員は、6名で常勤が1名だけです。そうした少人数にもかかわらず2～3年目毎に人事異動があり、人材養成や育成ができないことも課題となっております。

(倉敷芸術科学大学)

本学は小規模の大学で、全学生は1600名～1700名です。山の上に大学があるため、市民に開放しても交通の便が悪い状況で、100名ぐらいの利用にとどまっています。

研究室図書は、紛失の場合は現物弁償です。現物がない場合は、現物に近い内容の本で弁償してもらっています。

予算については、5年間削られてない状況で、学長の理解があります。また、図書館の入館者数を増やそうと努力しておりますが、他の施設と競合して減少しています。図書館の運営は、外部委託で司書資格を持つ職員で行っています。

(吉備国際大学)

4月から館長に就任し、今年度で定年です。課題としましては、利用者が減少しており、その理由として学生数の減少及び資料費の減少があります。利用促進のため、学生アンケートをとりました。閉館時間の延長や娯楽雑誌の購入、いちおしの本の推薦などを行っていますが、なかなか増加しない状況です。学生が「いってみようかなあ」といういい動機がない。飲食禁止でコーヒーも飲めない環境で、ネットカフェやまんが喫茶的なところと研究的・学際的な利用の共存は難しいと思っています。図書館は、本来は静かな環境が原則ですが、学生が集まる場所に本があるという考え方から何かアイデアを探っております。

(川崎医科大学)

お配りしているのは図書館のしおりです。図書館をアピールするためのポスターとしおりで、学生に配布したり、オープンキャンパスや高校生へのアピールに利用しております。また、丸善や紀伊

國屋の書店に置いてもらっております。ポスターは毎年4月に懸賞作品として3万円の賞金で図柄を募集しております。たくさんいい作品の図柄が集まりまして書店に買ってもらっております。他には、本学の蔵書構成を特化するようにしております。医療福祉系の新しい図書を購入するよう心がけています。土曜日は、近隣の専門学校の学生利用が非常に多く利用しております。人数の増加が仕事量にはねかえっておりますが、利用者の増加と仕事量の増加が比例しますので人の問題があります。毎年、選書ツアーを実施しております。研究室図書の紛失は、古本屋等の購入で対応する場合があります。

(松山大学)

先生に返済を求めたことはないのですが、先生の中には多い場合、何十冊もあり不明図書として処理しております。

開架図書は2週間でチェックするため、学生にはきびしいのですが、先生には甘い状況です。学部ごとに5年に1度職員がチェックしております。管理する側と利用者との不明図書に対する認識の相違がありまして、現在は返済義務の徹底化ということで対応しておりますが、5年前では、本人の重大な過失のある場合には返済を求められることがあることの条文で対応したり、館長判断のケースもありルールがいまいでした。

紛失図書の対応は倫理的にきびしくした方がいいのか、研究のために研究室図書はできるだけ消耗品で扱い先生の利便を図った方がいいのか、図書館としてどんな姿勢が標準的なのか、また先生に強く言えるか他大学の状況を参考にしたいと思っています。

(四国学院大学)

図書を購入する時の手続きとして、図書館で選書した図書は図書館の管理下にあり、個人研究費での購入した図書は研究室の管理下にあります。研究室図書が図書館にある図書と重複する場合についての対応をお伺いします。

(松山大学)

重複の時は、重複手続きし処分しています。

研究室図書は、図書館の貸出ですので返却を求めるとは当たり前ですが、なかなか強く要求できない状況です。

(?)

図書は貸出ですので法的には返すのは当然ですが、一般的には定年時に、一部の図書は処分しておりま

す。一方で、破棄していながら一方で返してくださいと強く言えないのも実情です。また、本の種類にもよります。貴重図書や高価な図書の場合と、一般的な図書でも違っているように思います。先生には保管管理責任がありますが、要求しても現実で返却がない状況をどう考えて対応したらいいのか困っています。

(議長)

時間が迫っております。他の項目で何かありましたらお願いします。

(?)

学生と学外者の求める図書が違っております。選書について苦慮しております。

資産管理ですが、監査法人から指摘がありました。利用者対応ですが、土日開館の臨時職員の割り当てで、控除の問題があります。

(?)

先ほどの資産管理についてですが、本学では5000円以下なら消耗品で科研は5万円です。資産図書のみチェックしております。

(議長)

本日は、ぜひぶんとくさんの問題を提供していただきました。本日の意見を整理し、次年度の協議題として検討を継続していただきたいと思います。どうもありがとうございました。

## 事務部課長会議

(議長：鳥取大学 山根図書情報課長)

協議題

- 1) 利用者増のための諸方策について
- 2) 図書館業務の外部委託について

(議長)

議題としまして、2つあります。時間が限られておりますのでご協力の程よろしく申し上げます。まず、最初の協議題としまして、「利用者増のための諸方策について」を福山大学から提出がありましたので趣旨説明をお願いします。

(福山大学)

今回こういった大きな場で出すものではないかもしれませんが、本学では昭和57年に薬学部分館の設置がありました。今年4月から分館として稼働し、新しい建物で規模も3倍、席数も増やしました。学生数が減少する中で当局から予算の使い方に工夫するよう求められています。学生用図書や研究用図書が削減される中で、学生推薦図書を瞬時に利用で

きるようにしたい。その推薦のため、図書館職員が全員にオリエンテーションしていましたが、学生は聞いてくれないので各先生が個別にオリエンテーションをしていただき、先生から学生希望を斡旋していただいたところ、貸出冊数も昨年から5%増となりました。他大学の取り組みの状況をお伺いしたく提案しました。

(議長)

各大学からの特徴的な取り組み事例の報告をお願いします。福山大学さん、そういう形でよろしいでしょうか？

それでは、その前に「入館者数が増えている」「減っている」「変わらない」の図書館を確認したいので、挙手をお願いします。残念ながら減っている大学がけっこうかなり多いですね。逆に増えている大学図書館の方、挙手をお願いします。それでは、増えている広島大学さんよろしくをお願いします。

(広島大学)

微増です。医学系の図書館の来館者数は落ちていきます。電子ジャーナルの影響と思われる。取組として医学図書館の閲覧室を拡張し、雑誌と図書を階で分けて利用をしやすいしております。今後利用者の増加の効果が期待できていると思っています。

中央館ではラーニング・コモンズの整備を行いました。グループ、スタディー、ワークなどの利用目的にあったスペースゾーンを設けておりこれが微増につながっていると思います。

(山口大学)

若干増えております。大きな理由に3つぐらいがあるかと思えます。

まず、グループ学習、個別学習やリラックスできる空間の施設整備、2つ目に、図書館運営のための学生協働です。現在40人が一緒に仕事をしています。学生からのアイデアを取り組んでおり、学習環境やサービスが変わっています。カウンターに学生が座っていると身近に感じて質問などしやすいことで、学生と利用者との職員のリエゾンがうまくいっており増加の原因になっていると思います。

入学生に対しては、身体検査にあわせて図書館のオリエンテーションを行い90%以上がうけています。また、新入生に共通教育の1コマから2コマに図書館の使い方を教えています。徹底して図書館の使い方を教えているので、来館する要件が多くなり、また利用しやすくなっているようで年間4万人が増えています。

(議長)

他の公立大学 私立大学さまいかがですか

(島根県立大学)

年間貸出冊数が5%増加しています。平成19年度英語教育高度化に伴い、多読による学生の貸出冊数が増えているようです。

本学は総合政策学部総合政策学科の1学部1学科の大学ですが、肝心の経済・政治部門の貸出は伸びていないのが現状です。学生リクエストは、本好きの学生がいなくなれば減るようです。新入生にはフレッシュマンセミナーや先生方からもオンデマンドセミナーを開催してもらっています。昨年度から、学生図書委員会を組織して10名程で、ブックハンティングを実施したり、アンケートより学生からの要望に応えるようにしています。先生方には、獲得したGPに関連した利用本を読んでもらうような機会を設けてもらうようにすすめています。

(議長)

ラーニング・コモンズにおける施設改修利用、学生との協働やオリエンテーション、セミナー、ブックハンティングなどいろいろ取り組まれているようですが他に何かございませんか？

(徳島大学)

昨年6月にリニューアルオープンをしまして20%ぐらいの利用者が増えています。その理由として大きな理由として5つあると考えています。まず、1つ目は動線です。玄関を2階から1階にしたことにより1階から集密書架に直に行けるようになりました。集密書架には、古い図書や利用頻度の少ない図書を収納していますが、学生にとっては動線によっては目に触れる機会が増え、利用に結びつくことを感じています。2つ目はコーナーを目的に応じて個別化にしたことです。1階は、カフェゾーンを中心に自由にディスカッションができる空間、2階静謐ゾーンとして静かに読書や調べものをする空間、3階はパソコンなどが利用できるマルチメディア空間にしました。3つ目は学生裁量経費の予算措置によりブックハンティングや読書感想文などの企画を設けて学生参加型の図書館機能を充実させました。4つ目は国家試験対策として学生が図書館での試験勉強を望んでいることにより学習空間として機能したことです。5つ目はオープンキャンパスや懸垂幕の設置や掲示の充実などの広報を充実させたことです。このように建物の改修にともなって、さまざまな企画やアイデアが実現することができ利用者



増につながっています。

(議長)

私立大学さんから何かございませんでしょうか？。

(山口大学)

島根県立大学に質問したいのですが、先ほどの英語教育の多読の件ですが、授業と図書館のアクティビティとどのような関係になっているのでしょうか。

(島根県立大学)

先ほどの話でもれていた点ですが、先生からは授業中に読書をすすめてもらっています。メディアセンターに、ラーニング・ランゲージ・サポート・ルームを設置し、多読支援の部屋を設けました。GPの獲得予算で多読支援を行う外国人の非常勤講師を配置しまして、学生の質問やリクエストに応じてもらっています。また、多読の利用に応じてスタンプがもらえて、たまるとエコバックがもらえます。また、ゆったりしたスペースにし、ソフト面の支援や棚の構成の入れ替えなど、利用状況をみて利用の高い図書を開架に配架しています。

(議長)

できればいろんな方にお話していただきたいのですが、いかがでしょうか？

(中国学園大学)

本学は、常勤2人と派遣職員が1人の小規模の大学ですが、学生の利用者が増えています。近隣の幼稚園からも利用できるよう絵本を3000冊を配架して地域における絵本図書館としての機能を充実させています。私学の助成金が措置されて、学生と地域を結びつけるよう努力しています。学生が授業の成果を図書館で発表したり、展示や授業内容のキーワードの図書を揃えています。国民読書年ということで、学生のボランティアが図書館の運営に参加してもらっています。外部からのセキュリティにも配慮し、絵本ミュージアムにむけての図書館の特色を活かすよう、また、あったかい雰囲気づくりに努めています。

(議長)

あと、5分ぐらいで次の課題に移りたいとおもいますが、私から鳥取大学の取り組みを2つ紹介いたします。小説や読み物の図書を充実するため、県立図書館や市立図書館から、数か月単位で100冊借りてコーナーを設けて利用してもらっています。また、カウンターで申し込むと、移動図書館により図書が配送してもらうサービスがあります。こうした公共図書館との連携があります。2つ目は簡単な

軽食については、OKにしています。学生が気軽に食べたり飲んだりしながら話ができます。

それでは、次の議題に移ります。図書館業務の外部委託について、広島大学から趣旨説明をお願いします。

(広島大学)

こういった提案をさせていただいたのは1つは国立大学法人の事務に関連して内閣府から市場化テストの対象にとりあげられる検討をはじめた動きがありました。今年の6月に公共サービス基本方針の改定があるそうですが、その中に国立大学法人の事務に、特にかつこととして施設の管理業務・図書館業務として検討を開始している。という状況があります。

国立大学図書館協会では、どのようなスタンスでアンケートに回答したのかについて昨年2月に理事会を開いて協議をしております。公共図書館で指定管理者制度が進んでいることは、御承知のことと思いますが、日本図書館協会は適当でないという見解をしている状況にあります。中国四国地区では現在どうなっているのか照合事項としてアンケートの集計をさせていただきました。

外部委託について課題について意見交換をしていただきたいと思います。

職員の減っていることから、こうした対応をしていると思いますが、職員の減の方策についても検討していただきたいと思います。

資料について、大きなところを説明したいと思います。

62館、全てに加盟館から回答をいただきました。ありがとうございます。まず、増減についてですが6割方が減員です。正規職員が減員になった場合、サービスについての対処方法について聞かせていただいております。業務の合理化と省力化、職員の能力育成と戦力アップ、契約職員の増員、学生協働の推進などがあげられております。業務委託を拡大するというのは以外と少ないようです。

それから、業務委託の整備として、一番多いのが清掃業務、製本や資料の電子化などの専門業者の優位性が明らかな業務、時間外休日開館などがありました。それぞれ、国立、公立、私立、の規模別でグラフを作成しております。それから、業務委託に関する方針について、職員により実施が困難な特定の業務以外の委託は考えていないが、一番多い選択でした。以上のような調査をさせていただきました。こういったことを観点に議論をお願いしたいと思いま

す。よろしくお願ひします。

(議長)

今、趣旨説明をしていただきました。どのように議論を進めるかは悩むところですが、時間内についてできるところまで進めていきたいと思ひます。

まず、趣旨説明についてご質問等はございませぬか？

アンケートの最後に総会職務別会議でご発言されたいことがあれば、その要旨を簡潔にご記入くださいます。このことに関して何か、ご意見があればお願ひします。

ないようですので、業務委託は、国公立大学図書館では、経費節減、人員節減の観点から避けて通れないものだと思います。

日々の図書館がどのようなものであれば、業務委託や人員削減が防げるのか？また、業務委託になった場合、どのような業務についてうまく委託する方法があるかについても、検討する必要があるかと思ひます。

(山口大学)

夜間業務と土日の開館は業者に委託しています。競争させると安くなりますが、そうなればなるほど業務やサービスの質が落ちてしまう。その対策として、学生を業者で雇ってもらい雇用形態を採用しています。学生が図書館をよく利用して慣れていて質が落ちないからです。また、昨年からは委託業者と図書館の間で連絡を定期的に行い、問題点があれば業者に対応してもらおうこととしています。

(議長)

他に委託の方法で何かありませんか？お手元の資料にある業務委託の現状についてご覧いただき、参考事例としてノウハウなどを報告いただけたらと思ひていますがいかがでしょうか？

(鳥取大学)

本学では休日の開館を委託しています。他の地区の事例を紹介いたしますと、目録を完全に業務委託すると業務の切り分けが難しいようです。実際に委託する前に業務の分析を行い膨大なマニュアルの整備が必要です。月に1回打ち合せとして連絡会を設けています。ただ、毎年更新するので業者が変更になれば、また最初から教育をしていくことになります。大学側としても人事異動により、最初からの打ち合わせが必要であることから効率性の問題があります。

(広島経済大学)

人員減のカバーとして、実際に整理業務を委託していますが、私立大学では全面委託が進む傾向です。大学経営の改革として、ルーチンワークは外注せよということの流れがあります。いかにマニュアルを整備しても図書館職員が育たなかったら図書館の機能を十分に発揮することはできないと思ひます。大学の教育の一部を業者にまかせるのはいかがでしょうか？図書館会から歯止めをする必要があると思ひます。

(倉敷芸術科学大学)

広島大学からアンケートを受けた時に感じたことですが、委託をする図書館職員が記入する内容でした。実は、本学では全員が委託の受託者ですから、記入する資格はありません。まず、第一にこれにつまずきました。もう一つは、日本図書館協会他関連団体は、委託に対して大きく反対の態度をとっていますが、ここ4年間の間に図書館で働く非常勤職員の数の方が正職員の数を上回ってきました。

委託に反対することが、非常勤職員をなくすことがこの目的なのか大きく疑問を持ってきました。図書館の業務委託をするかしないかの問題は我々のレベルの問題でなく、大学の理念の問題であるととらえています。もう少し、根底のルールを考えないと討議できないと思ひます。

(議長)

それはいつからですか？

(倉敷芸術科学大学)

一昨年の4月からです。

(岡山理科大学)

この問題は、大学の設置の立場にもよって違ふと思ひます。国立大学の場合は図書館の専門職員として採用されほとんど他の部署に異動がない雇用形態であると伺っております。私立大学の場合には、一般職として、数年おきに異動することが多いようです。その場合、図書館の質をどのようにカバーするかそれを補完するために委託は当然考えられると思ひます。本学では図書館の平均年齢が40歳をこえておまして、若返りを図るために検討しています。派遣と委託は権限のとらえ方が違ふので、いちがいどちらがいいのかは言えないと思ひます。

(倉敷芸術科学大学)

来年度私立大学の西地区の総会の当番館にあたっております。来年の4月に委託契約ができなかった場合には総会はできません。こういう問題はあるかどうか皆さんご存知でしょうか？

また、先ほどの意見にもありましたように、委託と派遣は違います。本学の場合は全面委託でございますので、予算の作成や人事権、他大学との交渉、全てを任されています。契約については、大学が行いますのでこういう問題が多々あると思います。本学ではわずか5名です。小規模の大学が、総会にどこまで対応できるのかの問題もあります。

(広島経済大学)

委託については、個別の大学でなく図書館の仲間として全体的問題として歯止めができないかを申し上げているわけです。いろいろな動きの中である程度はやむをえないとも考えています。

(議長)

そろそろ時間が迫っておりますので、まとめに入りたいと思います。今まで議論いただいた中では、委託仕様書や業務マニュアルの整備などサービスの質の維持や落とさないための努力が必要であることを話しあってきましたが、その他の対策や注意点について意見をいただきながらまとめに入りたいと思います。

(四国学院大学)

この質問が、現状についてならいいのですが、図書館委託についての方針ということなら、大きな問題だと思いますし、図書館全体が委託されている大学があるということもしっかり受け止めて考えていく視点も必要であります。また、反対に業者委託にした方が、質があがる場合もありますし、あまり委託に対して偏見のないオープンな視点で現状をしっかりと見つけて、大学全体の中での総合的な観点でとらえることが大切であると思います。

(議長)

アンケートについてのご意見をいただきましたが、他に何かご意見がありますでしょうか？

(広島大学)

選択の中に、職員の規模を入れましたが、正直0名の回答があることは想定しておりませんでした。職員が減っているという現実、正規職員と非正規職員の構成が逆転したことは、ここ2年間のことであり、こういった状況の中でそれぞれの大学がサービスの質を落とさないように、むしろ向上させているかの調査を行い、情報を共有したいと考えました。一方外部委託については、国立の場合はどんどん契約金額が安くなり、どんどんサービスの質が悪くなっている。学生を図書館業務の協働としていくことでカバーしています。

事務部課長会議での議論に対応できないところもあるかもしれませんが、整理しないまま提案させていただきました。

(議長)

他に何かございませんでしょうか？

それでは、全体会議の中、今までの議論をまとめて報告させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。